

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立外町小学校
1 前年度 評価結果の概要	・授業の質向上を目指し、主体的かつ対話的な学びを意識した授業を算数科を中心に実施した。主体的な学びを実現するために、授業の導入と終末での工夫や、対話的な学びを実現するためのクラスやグループでのリレー説明等の効果的な指導を職員で共有し、実践できた。今後も授業の質の向上を目指し、取り組みたい。 ・読書量については、図書館教育の創意工夫した実践により、増加傾向にある。しかし、保護者からの評価は低い傾向にあった。今後、さらに地域ボランティアと協力する等、読書量を増やす効果的な実践を継続する必要がある。 ・学校教育目標の柱の一つである「あたたかい」子どもの育成は、自己肯定感の向上、感謝・思いやりの心の醸成、暖かい挨拶の奨励を重点的に行うことができ、保護者からの評価も高かった。さらに、実践を継続し、自己肯定感を高め、自分に自信をもたせていきたい。
2 学校教育目標	「つよく」「かしこく」「あたたかい」子どもの育成 ～自ら考え動く～
3 本年度の重点目標	①「学力向上」→算数科を中心に、「楽しく、面白い」「わかる」授業、そして「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現を目指しながら、学力の向上を図る。 ②「心の教育」→児童の自己肯定感を高める活動を通して、自尊感情を高める。また、授業や学校行事等の教育活動において、「元気なあいさつ」「やさしい言葉づかい」の徹底した指導を行う。さらに、道徳教育や人権教育を通して心の教育の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学力向上対策シートを用いた研修を年3回行う。 ・全国及び県の学力・学習状況調査の結果の共有、改善のための職員研修を行う。	B	「学びのスタイル」チェックシートは作成中であるが、早く職員間で共通理解し、実践していきたい。 ・今年度の全国テストの結果、昨年度の県学習状況調査の結果からの課題を職員研修等で共有し、克服のための実践をしている。	A	・「学力向上対策評価シート」や「学びのスタイル」チェックシートを用いて、振り返りを行うことで、効果的な指導をすることができている。 ・学力テスト等の結果から分析した課題克服のために共通実践することで、学力の向上に繋がっている。	A	・学力テストの課題克服のために共通実践をされているのは良いことだと思う。更なる学力向上のためにご尽力いただきたい。	学力向上対策コーディネーター	
	○「主体的・対話的で深い学び」を実現した楽しい授業の実践	○授業に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・昨年度取り組んだ「どの子も意欲的に授業に参加するための手立て」を取り入れた授業を全職員で行う。記述力の向上を目指す単元を設定し、問い方やGW、CWの在り方を研究する。	A	・全職員が指導案を作成し、研究授業を行っている。音声での説明から記述への説明へ移行していくことや、説明のモデルの作成、説明活動への価値づけが今年度の研究の柱になっている。11月に最後の全校研を行い、成果と課題をまとめ、職員に提示する予定。	A	・説明力の向上を目指し、全職員で算数科の研究を行った結果、学調において4・5年が県の正答率を上回り、記述式問題の正答率は、4・5・6年で県を上回った。無回答率も昨年度に比べ、減少している。来年度は、話し合いの持ち方に重点を置く予定である。	A	・学力向上を目指した全校の取組で、学力調査の結果で成果が表れていることを嬉しく思う。重点課題の克服に向けて取組を継続していただきたい。	学習部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・年間を通して、「自己肯定感の高まりから自他への思いやり」につながる人権集会を数回設定する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。	B	・友達の良さについて考え、伝え合う活動を通して自他の良さに改めて気づき、自己肯定感を高めることにつながった。また、毎月末に道徳アンケートを実施した。	B	・全校でのいいところ探しの活動や、ハートフル集会などを通して、今まで気付けなかった自分の良さや友達の良さに気づき、自己肯定感や他者に対する思いやりの気持ちが高まった。	B	・子どもたちの自己肯定感や他者への思いやりの気持ちを高める取組ができていると思う。今後もハートフル集会等の内容ややり方を工夫していただきたい。	道徳教育推進教師 人権・向和担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的な対応ができていると回答した教員100%	○いじめ防止等について、組織的な対応ができていると回答した教員100%	B	・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎週1回、気になる児童や問題行動等の情報を共有し、早期解決につなげた。	B	・生活ハッピーアンケートを実施し、生活タイムで情報共有できた。また週1回の子どもタイムで気になる児童や問題行動等の情報交換をし、早期解決につなげた。	B	・いじめ防止のための取組であるアンケートや子どもタイムを実施されていて、情報交換や情報共有がなされている。今後も気になる児童や問題行動の早期発見に努めていただきたい。	生活指導部	
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力しようとしたと回答した児童 80 %以上	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・活動の見通しやふりかえりの時間を設け、活動の価値づけを行う。	A	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・活動の見通しやふりかえりの時間を設け、活動の価値づけを行う。	A	・キャリアパスポートを活用して自らの夢や目標の実現に向けた取り組みの意識向上を図った。 ・児童が活動に見通しをもって取り組めるよう指導し、活動後には観点を提示して振り返りの時間を設け、自らががんばりに気付かせることができた。	B	・学校行事や児童集会では、目標をもたせ、見通しをもって活動することや、児童主体となって活動することで、自信や達成感を感じさせることができた。また、自分に自信を持つことで次の活動や他の活動にも意欲をもち、将来の夢や目標の実現に向けて意識を高めることにつながった。アンケートで肯定的な回答をした児童は68%だったので、来年度80%を目指す。	B	・子どもたちに自信や達成感を感じさせる取組がなされていると感じた。子どもたちの夢や目標の実現に向けて意識を高める取組については、アンケートで肯定的な回答をした児童が目標に届いていないので、取組の工夫を期待している。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 「運動習慣の改善や定着化」 「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒%以上(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定) ②児童の交通事故を0(ゼロ)にする	・長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備する。 ・休み時間に取り組みたいようなチャレンジコーナーを作り、掲示する。 ・年間を通して、地域の方々とともに、職員も輪番で交通挨拶指導を行い、児童の安全意識を高める。 ・学年の実態に応じた交通安全教室を計画し、実施する。	B	・長縄や竹馬、柔らかなボールなどの貸し出し、整理整頓を行い外遊びの意欲向上を図った。 ・チャレンジコーナーは体育委員と協力しながら作製していきたい。 ・地域の方々と共に交通安全教室、地域に出て地域への交通安全啓発する交通バレーを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。各学級ごとに動画を視聴しながら交通安全教室を実施した。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒は50%だった。チャレンジコーナーを体育委員と協力しながら作製し、遊んでいる児童が増えた。 ・学期初めの登校指導を地域の方々と共に行った。また、地域の方との防災避難訓練を実施し、登下校時の危険箇所など確認しながら集団下校を実施した。	B	・職員と体育委員会の児童と一緒にチャレンジコーナーの取組をされているのは良いと思う。今後も外遊びを楽しむ児童が増えてくれればありがたい。 ・今後も登校指導や防災避難訓練を地域と共に進め、子どもたちの安全を守っていただきたい。	①保健体育部 ②生活指導部	
	○体力の向上	○運動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・体育委員会によるチャレンジコーナーやジョギングタイム等を設定するとともに、「さがんキッズスポーツチャレンジ」を推奨する。	B	・体育委員会でジョギングタイム等を設定し、体力の向上を図っている。チャレンジコーナーの内容を考え作製している。「さがんキッズスポーツチャレンジ」を職員連絡会で職員への周知を行った。	B	・運動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童は93%だった。「さがんキッズスポーツチャレンジ」を周知し、6クラスが取り組んだ。	B	・さがんキッズスポーツチャレンジを周知し、積極的に取り組んでいるのが分かった。取り組むクラスがさらに増えていくことを望む。	保健体育部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ・時間外勤務…1か月について45時間未満 ・時間外勤務…1年について360時間未満	・定時退勤日を設定する。 ・月曜日～木曜日の最終勤務時間の自己申告を行う。 ・必要な会議、連絡会は計画的に設定する。	B	・定時退勤日であること職員室の行事看板に掲示することで、定時退勤とまではいかないが、普段より早く退勤する職員が多くなった。 ・職員会議は目標とする終了時刻を予告し、効率よく時間内に終了することができた。 ・平日の最終退勤時刻の自己申告は後期から始める。	B	・時間外勤務者数(1か月に45時間以上)は前期は1か月あたり約10人であったが、後期は約5人に減った。 ・自己申告については、職員連絡会での声掛け程度で、提出までは求めなかったが、時間外勤務時間が多くならないよう意識が高まった。	B	・時間外勤務が減少傾向にあるのはいいことである。多忙であると思うが、何とか工夫をして、時間外勤務時間が多くならないように取組を継続していただきたい。	管理職	
	○業務改善への意識の向上	○1年間で業務改善を3つ以上行う。	・業務改善についての職員研修を行う。 ・若手職員に業務の効率化につながる研修を行う。	B	・学校行事の職員の役割分担を明確にし、準備等の時間短縮に努め、意識の向上を図ることができた。業務改善についての職員研修は前期に行うことができなかったため、後期に行う。	B	・学校行事の職員の役割分担の明確化、準備等の時間短縮の取組は年間を通してできた。 ・若手職員向けの業務効率化についての研修はできなかった。来年度の課題とする。	B	・学校行事の役割分担や準備の時間短縮の取組は業務改善につながると思う。 ・若手職員が増加していくので、今後研修の充実を図っていただきたい。	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育への意識の向上と支援のあり方の理解	○特別な支援が必要な児童への支援のあり方が理解できた、またはだいたい理解できた教員100%	・特別支援教育に関する研修会を年に5回実施する。 ・校内教育支援委員会を通して、情報共有を行う。	A	・前期に3回研修会を実施することができた。応用行動分析について学び、問題行動への対応について全職員で学ぶことができた。 ・定期的に会をもち、日頃から個別の支援を必要としている児童を把握し、来年度の就学について検討することができた。	A	・全体での研修は、年間4回の実施であったが、子どもタイムの際に児童支援のあり方についてのフリップ資料を提案することができた。また、ケース会議を継続的に開くことで具体的な支援について関係者で協議することができた。 ・定期的に会をもち、支援を必要としている児童の引継ぎがスムーズに行くよう個別の指導計画の作成を進めることができた。	A	・研修が計画的に実施されている。外部講師を招いて、全職員で具体的な支援について学んでいることが分かった。 ・校内支援委員会を定期的に開催し、児童の実態把握に努めているのが分かった。個別の支援計画の作成や引継ぎを行い、来年度の教育に生かしていただきたい。		特別支援教育コーディネーター
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望	<p>・自己肯定感を高め、学校行事に主体的に取り組む、自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進する。来年度もキャリア教育講話を行い、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>・保護者のアンケートの結果より、学校では、特に「温かい雰囲気」の学級づくり、「やさしい言葉遣い」「児童の夢や目標に向けて努力する」に重点を置いて取り組み、家庭と連携して「家庭での読書」「家族や地域でのあいさつ」を推進する。</p> <p>・校内研究のより一層の充実を図る。グループワークやクラスワークの場面での話し合いの持ち方に焦点を当てて研修を深める。</p> <p>・児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、保護者引き渡し訓練等を計画的に実施する。</p> <p>・若手教員が年々増えてきているので、初任者指導教員や初任研コーディネーターに働きかけ、若手教員向けの研修の充実を図る。</p>										